



神奈川県

KANAGAWA

# 神奈川県 河川のモニタリング調査

## 県民参加型調査第Ⅲ期調査(平成29～令和3年度)まとめ

神奈川県では、将来にわたり良質な水を安定的に確保するため、平成19年度から「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づき、継続的な水源環境の保全・再生に取り組んでいます。この取組の一環として、環境科学センターでは、毎年、県民の皆さんから調査員を募り、模川水系と酒匂川水系の動植物の生息・生育状況や河川環境の調査を実施しています。

### 何を調査するの？

水源河川である相模川・酒匂川水系における動植物生息状況調査や水質調査を実施します。



絵解き検索



本調査では事務局のサポートの元に、この資料を使って底生動物を調べていただきます。

### 調査の支援について

調査にあたっての事前説明会(6月頃)や採集方法、動植物の同定方法の講習会(6～11月頃にかけて複数回開催)を開催しております。



調査に必要な資機材等は、貸し出しを行っています。また、調査では、専門スタッフも配置しております。

### 調査実績

第Ⅲ期調査(平成29～令和3年度)では、のべ399名の調査員が参加し、のべ238地点で調査を実施しました。令和2・3年度はコロナ禍により新規募集無し

調査年度	参加人数	のべ調査地点数
平成29年度	104名	61地点
平成30年度	85名	62地点
平成31年度	90名	56地点
令和2年度	63名	37地点
令和3年度	57名	22地点
合計   のべ	399名	238地点

調査の実施や技術の取得には県と事務局がサポートいたします。調査員が任意の地点を選定して調査を実施します。



### 第Ⅳ期 令和4年～令和8年調査について

神奈川県では引き続き令和4年度からの5年間、「第Ⅳ期かながわ水資源環境保全・再生実行5か年計画」に基づき、県民の皆様のご協力をいただきながら、動植物や河川環境等、多様な指標による調査を実施していくことを予定しています。

### 調査に参加するには？

参加にあたっては、お申込みが必要です。各年度の4～5月頃に募集を行います。

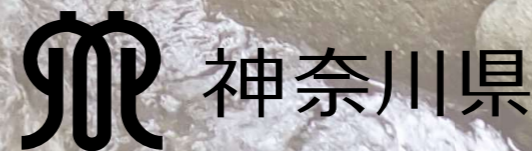
詳しくは、神奈川県環境科学センターHPの募集案内(QR)や広報をご覧ください。

募集案内



この調査に関するお問い合わせ

神奈川県環境科学センター 電話 (0463)-24-3311  
〒254-0014 神奈川県平塚市四之宮 1-3-39  
<http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/center/contents.html>





# 県民調査から見えた 水源河川の動植物の生息・生育状況

神奈川県全域の飲み水の元となる相模川・酒匂川水系において、動植物の生息・生育状況を調べることで河川環境の把握に努めています。これらの動植物には国や県で絶滅が危惧される種も含まれており、また、底生動物や魚類は水のきれいな物差しにもなります。

## 県民調査で確認された動植物



**カワウ**  
河川で潜水して魚を好んで採食します。山地の樹上をねぐらや繁殖場として利用します。



**ダイサギ**  
河川や池、水田などの水辺で広く見られます。魚やカエルなどを捕食し、樹林でコロニーを作ります。



**タシギ**  
水田や湿地、川沿いなどの水辺で見られます。長いくちばしを泥の中に差しミミズや昆虫などを捕食します。



**ヌカエビ**  
河川中流部や周辺の池で見られます。緩やかな流れの水草や植物の根の間で生息します。



**モクスガニ**  
河口域での産卵後、幼生は海で育ち河川に遡上します。河口域から河川中流まで広く見られます。



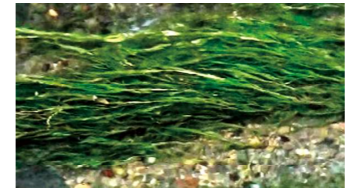
**ムカシトンボ**  
山間の森林に囲まれた河川上流域に生息します。流れが速い瀬の石の下に潜んで生活しています。



**クラカケカワゲラ属**  
丹沢山地の溪流で広く見られます。流れが速い瀬の石の下に潜んで水生昆虫を捕食します。



**ゲンジボタル**  
谷戸沿いを流れる沢や水路に広く見られます。カワニナを餌として、流れがある瀬の石や礫の下に潜んで生活します。



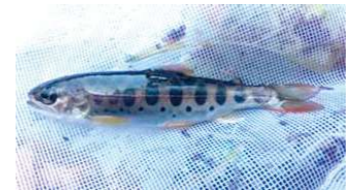
**ヤナギモ**  
柳のような葉を有することが本種の名前の由来です。日当たりの良い緩やかな流れや池で広く見られます。



**タコノアシ**  
花や実が密に並んだ様子がタコの吸盤に似ていることが名前の由来です。河川下流から中流の河川敷や休耕田などで広く見られます。



**アレチウリ**  
北アメリカ原産のつる性の植物です。県内では川沿いの草地で分布を広げています。



**サクラマス(ヤマメ)**  
丹沢山地の溪流に生息します。釣魚としての人気が高く、野外で見られる本種の多くは放流されたものと考えられます。



**アブラハヤ**  
河川中流部を中心に広く見られます。河床が砂の流れが緩やかな淵や水際を好んで利用します。



**ドンコ**  
相模川水系を中心に見られます。小魚などを捕食し、流れが緩やかな水際の植物などに潜んで生活します。



**ヌマチチブ**  
河川中流から下流にかけて広く見られます。淵や流れが緩やかな水際に潜んで生活します。



**アカハライモリ**  
箱根や丹沢山地の麓の谷戸など限られた場所でのみ見られます。春から夏にかけて粘着性の卵を水草などに産み付けます。



**ヤマアカガエル**  
河畔の樹林や山地の麓を中心に広く見られます。主に林内で生活し、春に林道や川岸の水たまりで産卵します。

## 底生動物から見た川の水質

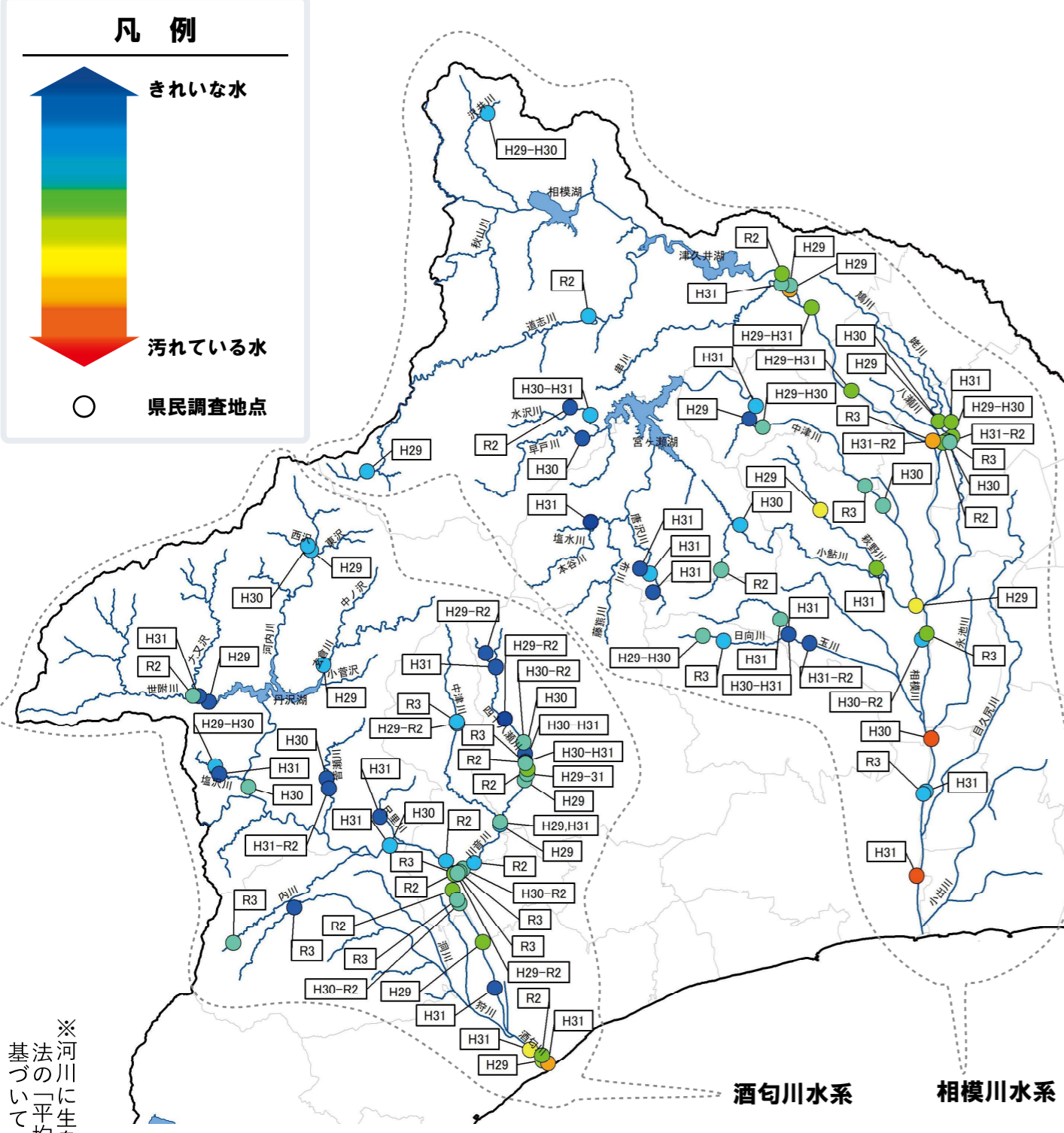
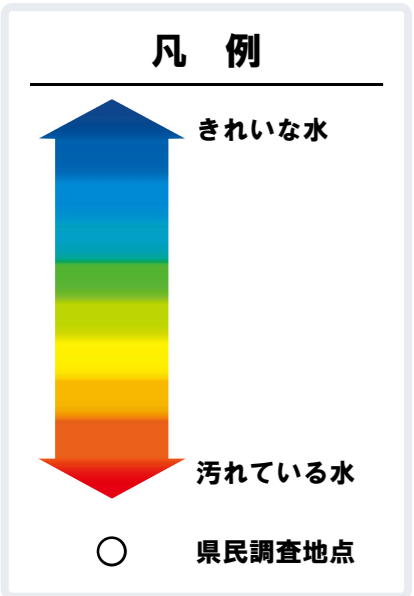
## 第Ⅲ期調査結果から

## 第Ⅰ期、第Ⅱ期調査との比較

第Ⅲ期の調査の結果、神奈川県の水源となっている相模川および酒匂川の水は、第Ⅰ期、第Ⅱ期（平成19年度〜平成28年度）の調査時と比較して上流域では同様に良好な水質を維持しており、中下流域では生物による水質指標や有機汚濁指標であるBODが改善傾向を示すなど、水質の向上が確認されています。

また、広域的な変化としては相模川・酒匂川全域において栄養塩類である窒素酸化物の低下（水質の向上）が確認されており、水源環境保全事業を開始する契機の一つである相模湖等でのアオコの異常増殖を抑制できることが期待されます。

本事業も残すところ第Ⅳ期のみとなりましたが、引き続き調査員の皆様とともに、相模川・酒匂川のモニタリングを続けていきます。



※河川に生息する底生動物の種類や種数を使った評価手法の「平均スコア法」によって算出した平均スコア値に基づいています。